

最終報告

# 24時間対応 定期訪問随時対応サービスモデル事業 の成果と課題

24年度からのサービス導入に向けて

平成24年3月



品川区

Shinagawa City

# モデル事業の概要（Ⅰ）

- 目的、実施方法など

- 目的：

平成24年度施行の地域密着型サービス「定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス」の円滑導入を目指す。

- 実施方法：

「既存インフラの活用と地域の事業所との協働」

- ・ 夜間対応型訪問介護事業の実績を有する「(株) ジャパンケアサービス」へしくみづくりの検討等を委託
- ・ 区内訪問介護・訪問看護事業所への連携・協力を要請

# モデル事業の概要(Ⅱ)

- 期間： 平成23年7月～平成24年3月  
(サービス提供：8月～3月)
- 実施内容：
  - (1)しくみづくりの検討および実サービスの検証
  - (2)サービスの提供
  - (3)情報共有のしくみ検討・検証
- 事業経費：

(1) 検討・検証経費	2,990千円
(2) サービス提供費	13,608千円
(利用者自己負担 20,000円)	
(3) 情報共有のしくみ検討経費	1,680千円

# 実施状況の概要（Ⅰ）

## （1）しくみづくりの検討等（検討会等開催状況）

＜参加者＞ 区、夜間対応型訪問介護事業所、NPO法人  
在宅介護支援センター（地域包括支援センター）、訪問介護事業所、訪問看護事業所

### ＜事前打合せ＞

	開催日時	議題	参加者数
第1回	平成23年 6月23日(木) 13:30～15:30	1. モデル事業の概要について 2. 対象者(候補者)について	17人
第2回	平成23年 6月30日(木) 13:30～15:30		19人

### ＜検討会＞

第1回	平成23年 7月29日(金) 10:00～12:00	1. 対象者(候補者)の選定結果について 2. ケアプラン・訪問介護計画等について 3. 8月からのサービス提供の進め方について	23人
第2回	平成23年 9月 5日(月) 14:00～16:30	1. 各月の実施状況について ・サービス内容の確認・課題整理・感想など ・費用額・自己負担額の導入前後比較について 2. 国への中間報告について	24人
第3回	平成23年11月15日(火) 15:00～17:00		22人
第4回	平成24年 1月27日(金) 15:00～17:00		25人
第5回	平成24年 2月27日(月) 10:00～12:00	1. 実施状況のまとめ 2. 報酬改定に伴う試算について	25人

### ＜委員会＞ 上記参加者の他、区健康福祉事業部長・高齢者福祉課長、学識経験者

第1回	平成23年 9月29日(木) 13:00～15:00	1. モデル事業の概要・実施体制 2. モデル事業の実施状況 ・対象者の状況 ・変更前後のサービス内容 ・効果と課題	26人
第2回	平成24年 3月27日(火) 15:00～17:00	1. モデル事業の実施状況 2. 報告書について 3. 平成24年度からの定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービス開始に向けて	25人

# 実施状況の概要（Ⅱ）

## （2）サービスの提供

### ①定期巡回訪問サービス

- あらかじめ作成された計画に基づき、1日3回程度(サービスの提供に要する時間は1回あたり概ね20分未満)の訪問によりサービス提供する。

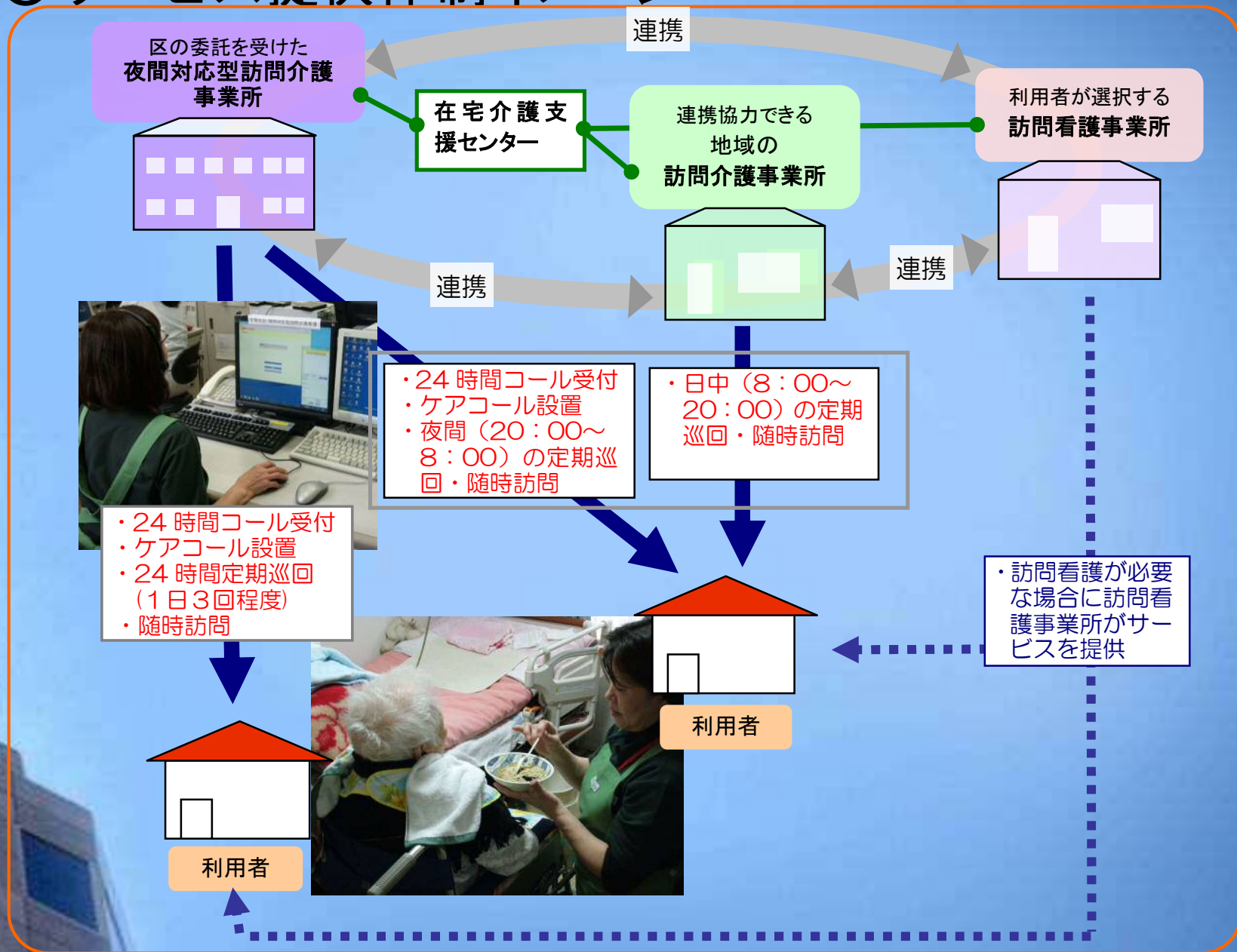
### ②随時対応訪問サービス

- 24時間対応可能な窓口を設置し、夜間対応型訪問介護事業で使用しているケアコール機を活用して、利用者からの通報内容に応じて定期巡回以外の訪問サービス等を随時提供する。

※実施にあたり、既存サービスのうち、夜間対応型訪問介護および訪問介護は、モデル事業に一元化し、併用は不可とする。



# ○サービス提供体制イメージ



# ○サービス利用者(対象者)基本情報

No.	性別	年齢 (歳)	要介 護度	日常生活自立度		世帯形態	事務所から の距離	移動(日中帯)		移動(夜間帯)		利用開始日	利用終了日		鍵の管理状況
				(障害)	(認知)			手段	推定 時間	手段	推定 時間		終了理由		
1	女	94	4	C2	IV	家族同居	1,000m	自転車	12分	自動車	15分	平成23年8月1日	平成23年10月31日	本人希望	預かりなし
2	女	84	4	B2	自立	高齢者 世帯	800m	自転車	8分	自動車	15分	平成23年8月1日	平成24年3月31日		預かりあり
3	女	95	3	A2	Ⅲa	独居	800m	自転車	15分	自動車	10分	平成23年8月1日	平成24年3月31日		預かりなし(ダイヤル式南京錠)
4	男	81	5	B2	Ⅲa	高齢者 世帯	1,000m	自転車	20分	自動車	10分	平成23年8月1日	平成24年3月31日		預かりなし
5	女	78	5	C1	Ⅲa	家族同居	800m	自転車	10分	自動車	15分	平成23年8月1日	平成24年3月31日		預かりあり
⑥	女	85	3	A1	I	高齢者 世帯	600m	自転車	10分	自動車	10分	平成23年8月1日	平成24年3月31日		キーボックス利用
⑦	男	80	4	B2	Ⅱb	高齢者 世帯	1,000m	自転車	15分	自動車	10分	平成23年8月1日	平成23年9月17日	逝去	預かりなし
⑧	男	97	3	B2	Ⅱa	高齢者 世帯	850m	自転車	11分	自動車	15分	平成23年8月1日	平成23年9月14日	施設入所	預かりなし
⑨	男	77	5	B2	IV	高齢者 世帯	1,400m	自転車	20分	自動車	15分	平成23年8月1日	平成23年12月31日	施設入所	預かりなし
⑩	男	84	1	J2	I	高齢者 世帯	1,300m	自転車	13分	自動車	13分	平成23年10月1日	平成23年11月23日	入院 (入院中逝去)	預かりなし
⑪	女	87	2	J2	Ⅱb	家族同居	1,200m	自転車	15分	自動車	15分	平成23年10月1日	平成24年3月31日		預かりなし
⑫	女	81	3	B2	自立	家族同居	650m	自転車	10分	自動車	10分	平成23年11月8日	平成24年3月31日		預かりなし
13	女	82	1	A2	自立	家族同居	1,000m	自転車	12分	自動車	15分	平成23年12月1日	平成23年12月6日	本人希望	預かりなし
14	女	73	3	A1	I	家族同居	800m	自転車	10分	自動車	10分	平成23年12月21日	平成24年3月31日		預かりなし
⑮	女	67	3	B1	I	家族同居	1,500m	自転車	15分	自動車	15分	平成24年1月5日	平成24年2月26日	入院	預かりなし
16	男	82	3	C1	I	家族同居	800m	自転車	8分	自動車	10分	平成24年1月11日	平成24年3月31日		預かりなし
平均		83	3.3	-	-	-	969m	-	13分	-	13分	-	-	-	-

注) ○番号は地元事業所連携該当者

# ○利用者全体の利用状況(平成23年8月～平成24年2月合計)

延べ利用者数	64人	延べ利用日数	1,739日
--------	-----	--------	--------

## 《定期巡回》

	予定			実績			
	日中帯	夜間帯	計	日中帯	夜間帯	計	
ケア内容 (複数実績)	排泄介助	2,393回	1,188回	3,581回	2,288回	1,132回	3,420回
	オムツ交換	724回	57回	781回	680回	63回	743回
	食事介助	0回	0回	0回	45回	0回	45回
	清拭	2回	0回	2回	20回	7回	27回
	洗面	261回	0回	261回	274回	44回	318回
	服薬介助	1,238回	31回	1,269回	1,060回	22回	1,082回
	更衣介助	492回	49回	541回	581回	184回	765回
	水分補給	1,766回	419回	2,185回	1,410回	442回	1,852回
	体位交換	1,238回	808回	2,046回	1,134回	869回	2,003回
	外出介助	1回	0回	1回	0回	0回	0回
	下膳・配膳	761回	40回	801回	689回	30回	719回
	安否確認	0回	0回	0回	2回	0回	2回
	その他	710回	22回	732回	670回	28回	698回
	合計巡回数	3,420回	1,246回	4,666回	3,204回	1,204回	4,408回
1日平均巡回数	2.0回	0.7回	2.7回	1.8回	0.7回	2.5回	
合計ケア時間	71,819分	29,610分	101,429分	70,468分	24,026分	94,494分	
1回当平均ケア時間	21分	24分	22分	22分	20分	21分	
1回当最大ケア時間	60分	60分	60分	67分	68分	68分	
1回当最小ケア時間	15分	20分	15分	5分	10分	5分	
合計移動時間	44,829分	15,629分	60,458分	35,986分	12,979分	48,965分	
1回当平均移動時間	13分	13分	13分	11分	11分	11分	
1回当最大移動時間	20分	30分	30分	30分	30分	30分	
1回当最小移動時間	8分	8分	8分	3分	10分	3分	

## 【当月の定期巡回キャンセル状況】

キャンセル理由	回数
家族対応の為	95回
ショートステイ利用の為	19回
通所介護利用の為	1回
体調不良の為	2回
訪問拒否の為	12回
その他	134回
合計(A)	263回
定期巡回予定数(B)	4,666回
B-A+C	4,408回
対予定数キャンセル割合	5.6%
追加ケア(C)	5回

## 《コール受付》

	実績			
	日中帯	夜間帯	計	
コール内容 (複数実績)	転倒・転落	9回	3回	12回
	緊急要請	0回	1回	1回
	排泄介助	706回	132回	838回
	体位交換	158回	20回	178回
	誤報	27回	12回	39回
	無応答	1回	0回	1回
	話相手	8回	1回	9回
	その他	105回	59回	164回
合計コール回数	934回	207回	1,141回	
1日平均コール回数	0.54回	0.12回	0.66回	
合計通話時間	1,011分	235分	1,246分	
1回当平均通話時間	1分	1分	1分	
1回当最大通話時間	3分	2分	3分	
1回当最小通話時間	1分	1分	1分	

## 【メインコール受付詳細】

	実績(日中帯)		実績(夜間帯)		実績(計)			
	受付総数	内訪問数	受付総数	内訪問数	受付総数	内訪問数	訪問率	
コール内容	転倒・転落	9回	9回	3回	3回	12回	12回	100.0%
	緊急要請	0回	0回	1回	1回	1回	1回	100.0%
	排泄介助	706回	699回	132回	125回	838回	824回	98.3%
	体位交換	158回	140回	20回	18回	178回	158回	88.8%
	誤報	27回	1回	12回	12回	39回	13回	33.3%
	無応答	1回	0回	0回	0回	1回	0回	0.0%
	話相手	8回	0回	1回	0回	9回	0回	0.0%
	その他	25回	16回	38回	24回	63回	40回	63.5%
	合計コール回数	934回	865回	207回	183回	1,141回	1,048回	91.8%

## 《随時訪問》

	実績			
	日中帯	夜間帯	計	
ケア内容 (複数実績)	転倒・転落	14回	3回	17回
	緊急対応	0回	1回	1回
	排泄介助	791回	174回	965回
	体位交換	558回	113回	671回
	誤報	1回	1回	2回
	その他	276回	81回	357回
合計訪問数	865回	183回	1,048回	
1日平均訪問数	0.50回	0.11回	0.60回	
合計ケア時間	13,478分	3,199分	16,677分	
1回当平均ケア時間	16分	17分	16分	
1回当最大ケア時間	60分	35分	60分	
1回当最小ケア時間	5分	8分	5分	
合計移動時間	8,404分	1,748分	10,152分	
1回当平均移動時間	10分	10分	10分	
1回当最大移動時間	30分	15分	30分	
1回当最小移動時間	2分	3分	2分	



# 実施状況の概要(Ⅲ)

## (3) 情報共有のしくみ検討

- 実施事業所と連携先訪問介護事業所との情報共有のためのシステム検証を行う。

### ① システム運用のまでの流れ

- システム共有のためPC環境(ソフト導入等)
- ◆ システム研修(連携先訪問介護事業所訪問)

### ② システム共有の利点

- 膨大な利用者に関するデータ処理の効率化
- 利用者の最新状態を相互に認識
- クラウドシステムの活用による個人情報漏洩防止

### ③ 今後の課題

- 法人間での活用方法のさらなる周知・徹底

# モデル事業から見えてきたもの（Ⅰ）

（着実な成果）

- 利用者の尊厳の保持や意欲の向上
  - 利用者・介護者の精神的な安定・安心感の確保
  - 介護者家族の介護負担の軽減
  
  - 地域のさまざまな資源との協働による「地域包括ケアシステム」の構築の可能性
  - 身近な地域でのサービス提供による安心感と迅速性
  - 介護と医療の実効性のある連携の推進
- 顔の見える関係から具体的ケースを通して、さらに一歩踏み込んだ連携

# モデル事業から見えてきたもの(Ⅱ)

(なお残される課題)

- さまざま対象者への対応のあり方
  - ・ 「独居高齢者」「認知症高齢者」「退院退所後の在宅復帰」「虐待の疑い」などへの対応
  - ・ 「生活支援・援助」や「リハビリ」への対応
  - ・ 的確にサービスを届けるためのケアマネジメントのツールやしくみの構築
- 情報共有のしくみづくり(ICTの活用と情報保護)
- 連携型における訪問看護事業所との調整
- 費用負担と介護報酬の評価

# 今後の事業展開（Ⅰ）

- 区は、対象者への的確にサービス提供を行うため、基盤整備を積極的に進める。
  - ①効率的効果的なケアマネジメントの手法の確立
  - ②地域包括ケアのための総合的なしくみの構築
- 指定事業所は、地域のさまざまな資源との連携を図り、効率的なサービス提供を実現する。
  - ①連携先資源の拡充
  - ②オペレーション機能の充実
  - ③情報共有のしくみの整備 など

○今後、第五期事業計画期間内において、区内全域でのサービス提供を目指す。

# 今後の事業展開(Ⅱ)

## ◆定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを推進するために

### ○必要とされる要介護高齢者に的確にサービス提供を行うために

定期巡回・随時対応サービス  
ケース検討会議

主催：  
指定事業所  
と区の共催

メンバー：

- ・区（ワーカー、保健師）
- ・指定事業所
- ・訪問介護事業所
- ・訪問看護事業所
- ・居宅介護支援事業所
- ・その他関係事業所  
（通所介護事業所ほか）

- 利用希望者の状況や利用状況確認
- 課題整理と成果の検証
- 推進方策等の検討 など

### ○地域に開かれたサービスと介護・医療連携を一層推進するために

(運営基準に定められている組織として)

定期巡回随時対応型訪問介護  
看護サービス推進会議  
(介護・医療連携推進会議)

主催：  
指定事業所

メンバー：

- ・指定事業所・区(保険者)
- ・医師会 ・地域住民
- ・訪問介護事業所
- ・訪問看護事業所
- ・居宅介護支援事業所

### □適正な事業所運営を確保するために

品川区地域密着型サービス運営委員会  
(事業所指定の審査等)

主催：区

報告

実地指導・検査の実施  
(保険者)

### □「地域包括ケアシステム」を構築するために

品川区介護保険制度推進委員会  
(区長諮問機関)

主催：区

# さいごに・・・

本モデル事業の実施に際し、さまざまなデータの提供にご協力をいただきましたご利用者様ならびに介護者・ご家族様はじめ、各事業所、NPO法人品川ケア協議会ほか関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

品川区健康福祉事業部高齢者福祉課



【品川区モデル事業導入前後状況】

NO.	利用者		①身体的状況	②精神的状況	③家族の状況	④生活援助・医療ニーズ等	再委託先
1	■	導入前	・介護は全て息子様一人で行なっていたので、身体的な負担が大きかった。	・少しの変化にも不安を覚えたりする事があった。 ・以前入所していた施設では、男性への拒絶があった。	・介護者である息子も要支援1の認定を受けている。 ・息子様が病院へ行く時間も無く、介護に注力していたため、体力的に不安があった。	・ご家族が対応されているので必要なし。 ・10月にて終了。	台場HS
		導入後	・息子様が介護する機会を減らし、 <u>介護負担を軽減</u> することができた。	・随時対応は、身近に介護の相談などができ、コールを鳴らすと <u>直に来てくれる安心感</u> が得られた。	・夜、ゆっくりと眠れる事ができるようになった。 ・専門職に任せることで、自分が何でもやらなくてはならないという <b>使命感、緊張感からは開放されたが、男性ヘルパーは受け入れてもらえなかった。</b>		
2	■	導入前	・退院後ほぼ寝たきり状態で、尿意はあるものの仕方なくオムツに排泄していた。 ・昼は訪問サービスにて、手引きき、歩行にてトイレ介助をしていた。 ・定期訪問時には、排尿は既にオムツ内にしてあり、ご本人様は納得をしていない様子であった。	・トイレで排泄したいのに、ヘルパーが来る時間に合わないため、我慢したり、オムツにしなければならなかった。 ・オムツには排泄したくない。	・トイレで排泄させてあげたいが、ご主人様だけでは対応が困難。 ・娘様も頻繁に訪れることが出来ないが、何とかしてあげたい。 ・排泄介助の方法もわからない中、退院されたため、対応が分からず困惑していた。	・ご家族が対応されているので必要なし。	台場HS
		導入後	・排泄時に随時対応する事で、 <u>ご本人も意欲的に自ら身体を動かされていた。</u> ・デイサービスを増回し、四点杖で見守り歩行での <b>トイレ排泄が可能</b> となった。 ・随時対応では、自宅到着に10分程かかるため、 <u>間に合わない場合も多少あり。</u>	・自分の行きたい時に排泄できることにより、オムツへの <b>尿失禁漏れの不安が軽減。</b> ・何かあった時も、いつでも駆けつけてくれる <b>安心感</b> がある。	・娘様が週に1回様子を見る為に泊まる程度になり、 <b>身体的負担が軽減。</b> ・いつでもヘルパーが駆けつけてくれる事により <b>精神的にも楽になった。</b>		
3	■	導入前	・肺炎にて入院。入院前は昼間は離床していたが、退院後ADL低下により寝たきり状態になる。 ・意識はしっかりしているが耳が聞こえにくい状態。	・孤独感が強くあり、独語が多かった。 ・こだわりが強すぎて他者の受入れが困難。	・退院後、在宅酸素を必要とし、身体介護の必要性が高くなり、娘様だけでは負担が大きくなってしまった。 ・娘様が泊りがけで介護をしていたが、ご本人様の痛みの訴えがストレスとなり、それが不安で帰宅することが出来なくなっていた。	・食事介助・簡単な調理・配下膳。 ・2月終了。	台場HS
		導入後	・臀部に水溶便による皮膚かぶれがあり、 <u>痛いときには自らコールを押し</u> され、対応が出来た。 ・熱発などの <b>身体の変化に敏速に対応</b> する事ができた。	・男性を含め、 <u>複数のヘルパーを受入れ、関わるようになり、何時に誰が訪問するのか興味を持つようになった。</u> ・ヘルパーが多く関わることで <b>孤独感が解消</b> されてきた。 ・ヘルパーとの <b>会話を楽しみ、独語が無くなってきた。</b>	・泊まりで介護する日もあるが、 <u>週2回安心して自宅に帰ることが出来る。</u> ・ <u>ご家族の身体的負担を軽減</u> することが出来た為、ご家族も安心して、 <u>安定的に介護を継続</u> することが可能となった。 ・今まで疎遠であった <b>家族と繋がりが持てるようになった。</b>		
4	■	導入前	・車いすでトイレ介助実施。 ・ご自身では体重を支えられず、移動、移乗は全介助であったが、足に力を入れることが出来ていた。 ・歯磨きは半介助。会話も可で笑顔もみられていた。	・数名のヘルパーが訪問する事に、身体的、精神的不安から緊張が生じ、身体的硬縮に繋がっている様子。 ・表情に乏しく意思の表出はほとんどないが、介助者に嘔み付く行為が頻繁に見られ、これが意思の表出の一つとも考えられる。	・奥様が移動介助をしていて転倒が多かった。 ・主介護者である奥様のストレスが大きく、イライラしている様子が見られた。	・ご家族が対応されているので必要なし。	台場HS
		導入後	・ <u>複数のヘルパーが対応するので、緊張感がある</u> 為か、足に力が入らなくなっている。 ・硬縮が進み、トイレまでの移乗、移動介助時の転倒、転落のリスクが高くなったため、ポータブルトイレ介助に変更。 ・ポータブルトイレでもリスクが高いため、サービス内容検討中。 ・ <u>心身の状況は悪化</u> してきている。	・ <u>家族介護の負担が軽減</u> して、ご本人様の家族を思う気持ちは緩んできていたがその気持ちに対して、身体状況は伴っていない状況。 ・相変わらず <b>意思の表出は少なく、嘔み付き行動</b> は見られている。 ・ <u>複数のヘルパーが訪問することでの緊張</u> は、継続して見られている。	・随時対応で訪問することにより、無理をして奥様が移動介助しなくなった分、 <u>転倒事故は減っている。</u> ・随時コールと随時対応が1日に複数回と激増しているが、 <b>奥様は安心して介護</b> している。 ・ご本人様の心身状態は悪化傾向であるが、 <u>奥様はその状況を受け入れられず、今までどおり移乗、移動介助をしてのポータブルトイレでの排泄介助を希望</u> されている。		
5	■	導入前	・鬱病、過体重、糖尿病の悪化に加え大腿骨頸部骨折を契機に全くの寝たきり生活となっている。 ・開眼して、会話が可能であるが、尿意は無し。 ・車椅子により自宅で入浴が出来ていた。 ・座位保持が可能で、ポータトイレでの排泄も可能。	・介護に対する抵抗が大きい。 ・ヘルパーが来たという認識があり、会話の内容もかみ合っていた。 ・良くなりたい、頑張りたいという意欲はあまりなく、夜間に大声で騒ぐことがある。	・身体の自由があったため家族で介護することが可能であった。 ・夜も大声で騒がれるため、頻繁に起こされ大変だった。	・ご家族が対応されているので必要なし。	台場HS
		導入後	・モデル事業導入に際して訪問入浴を利用することにご納得いただき、結果として <b>身体が清潔</b> がかなり改善し、毎日を気持ちよく過ごせるようになった。 ・ <u>身体体動が殆ど無くなってしまっている。</u> ・ <u>言葉が少なくなっている。</u>	・清潔保持介助の抵抗は今もあるが、以前程ではなく、文句を言いながらも受け入れて下さっている。 ・ヘルパーが来ているという認識がなく、 <u>会話もかみ合わなくなってきた</u> いる。 ・依然良くなるという <b>意欲はなく、夜間大声で騒ぐことも続いている。</b>	・体が拘縮してきているため、 <u>家族での介護が困難</u> になってきている。 ・夜間、日中共に <b>家族がオムツ交換をする頻度が減った為、負担が軽減</b> された。		
6	■	導入前	・室温調整や適切に水分補給ができず、体調を崩すことが多かった。 ・失禁量が多く、畳までいつも濡れており、不衛生な環境だった。	・外出(DS)に拒否的だった。	・家族も高齢であり、排泄介助が必要なときでも、どうにもならず放置していることもあった。	・高齢の夫との二人暮らしの為、今後は調理や買物などの支援が必要となってくる事が想定される。	大崎HH
		導入後	・定期的にヘルパーが訪問する事で、 <u>水分補給や室温調整、服薬</u> ができ、体調は安定している。 ・一日3回、排泄介助の対応をする事で <b>清潔が保持</b> できている。	・毎日の定期訪問により <b>他者との関係に慣れ、生活のリズムも出来たことで休まずにデイサービスを利用</b> できるようになり、楽しめるようになった。	・ヘルパーの定期訪問で <b>家族の不安がなくなり負担の軽減</b> ができた。 ・ヘルパーに相談する事で、 <b>体調変化の早期発見</b> ができるようになり、安心して介護ができるようになった。		

7	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>服薬や水分補給が十分でないため、体調を崩されることが多かった。</li> <li>発汗多量で濡れた衣服のまま、交換ができずそのままのことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DSの拒否強かった。</li> <li>ベッドからの転落時や痛みの強い時に、奥様では対応ができず不安が強かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主介護者である奥様は不定期で就労されており、不在時の介護に不安があった。</li> <li>奥様も高齢であり、体格的にも介助に限界があるため、介護への不安があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011年9月ご逝去。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>服薬、水分補給が定期的に行えるようになり体調が安定した。</li> <li>シーツ交換や更衣介助を定期的に行うことで、清潔が保持できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多数のヘルパー訪問により、より多くの人との関わりができ、DSへの拒否が弱くなった。</li> <li>コールをすることで誰かが駆けつけることで、安心感を得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥様のご不在時にもヘルパーが訪問し、服薬管理や水分補給、安否確認をすることで不安が軽減された。</li> <li>転倒・転落時に息子様の訪問を待つことなく、早急に対応することができ、安心感を得られた。</li> </ul>		
8	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>室温調整や水分補給ができず、体調を崩されることが多かった。</li> <li>失禁したままでもあり、不衛生な環境だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問介護について拒否あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主介護者である奥様も高齢で、認知症の服薬をされている状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011年9月ご入院。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>室温調整や水分補給を定期的に訪問することで、管理できるようになり体調が安定するようになった。</li> <li>失禁の回数が減り、清潔が保持できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に、短時間の訪問を多数のヘルパーで行うことで、身体状況や生活環境が改善されたことにより、ヘルパーへの拒否が無くなり、訪問時には笑顔が見られたり、会話ができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥様が認知症のため、訪問時、洗濯などの家事が途中のままになっていることがあったが、訪問したヘルパーにより声掛けや促しを行なうことで、家事ができるようになった。</li> </ul>		
9	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症があり、寝たきりの状態。</li> <li>排泄、食事はベッド上で行っていた。</li> <li>夜もあまり眠っていない様子で、ベッドにいても目が離せなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表情は固く、笑顔や発語は主介護者の奥様にのみ見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同居の奥様も高齢であり、退院されたばかりのため、介護に限界を感じていたが、手を抜けない性格のために介護疲れが見られていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年1月ご入所。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄介助をコール対応で早急に対応できるようになり、清潔が保持できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コール対応をすることにより、奥様の介護負担が軽減された。そのことにより、奥様が安心感を得られ、ご本人にも伝播した様子だった。</li> <li>ヘルパーに対しても笑顔や発語あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期、随時いつでもヘルパーが駆けつけることに安心感を得られた。</li> <li>介護負担が軽減され、今まではできなかった近所の散歩や祭礼見物などご夫妻での外出を楽しんでいた。</li> </ul>		
10	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>服薬ができておらず、同居のご家族様も認知症のため体調の変化に気づけない状態だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>服薬について関心薄かった。</li> <li>訪問介護について拒否があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥様も認知症のため、服薬できていない状況だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011年11月ご入院。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な服薬と体調変化の確認ができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に服薬ができるため、ヘルパーの訪問を受け入れていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主介護者の奥様にも服薬の声掛け促しをすることにより、服薬できるようになった。</li> </ul>		
11	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症のため、夜ベッドで寝ていない事もあり、体調も不安定になっていた。</li> <li>失禁されているにもかかわらず、後始末が出来ずそのままの事があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定のヘルパーでしか対応できない状況と身体介護は拒否が強かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>妻の介護で不安が強く、ご家族様の方が精神的に不安定になっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コールの内容に生活援助の部分が多く、説明しても理解ができない状況もあるが、高齢者世帯であり、介護者のご主人もご自身の保清や、食事準備などが気力の低下もみられている為出来ない事が多くなってきている。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>就寝介助を行う事で、ベッドで休むようになり、体調が安定してきた。</li> <li>失禁の後始末が随時で対応できるため、清潔が保持されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のヘルパーが訪問することで、ヘルパーに慣れたためか拒否がなくなり、排泄介助も対応できるようになった。</li> <li>夜間ベッドで眠れるようになったため、日中もおきていることが多く、状態も安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期訪問とコールをする事で、誰かが駆けつけてくれる安心感が得られた。</li> </ul>		
12	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>便失禁された時に早急の対応を希望されていたが、定時訪問までそのままお待ちいただいていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>便失禁された時に早急の対応を望めない、という不安感があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主介護者であるご主人も高齢で腰痛があり、息子様も日中就労されており、訪問介護と通所介護を利用されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご主人も腰痛があるため、今後は買物などの支援が必要になると予想される。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>コールをすることで随時に排泄介助ができるようになり、清潔が保持できているため、皮膚状態も良好になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コールすることで誰かが駆けつけてくれるという安心感を得られた。</li> <li>駆けつけるヘルパーに対しご自身でも頑張ろうという意思を持って対応して下さり、起き上がりや歩行がスムーズになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人の不安が解消されたことにより、精神的な負担が軽減された。</li> <li>ご本人がお話し下さるご家庭内の話題が明るくなり、家族関係が良好になったことが伺えた。</li> </ul>		
13	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢の夫と2人で暮らしているが、鬱病傾向にて入院。</li> <li>社会的関わり、世間との接触に嫌悪感を示していた。</li> <li>過敏性胃腸炎により嘔吐を繰り返されたり、骨粗しょう症による関節痛があるため移動時の見守りが必要。</li> <li>服薬の管理が出来ておらず、服薬を促す目的で導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夫以外と話す機会がほとんどなかった。鬱傾向で入退院の繰り返しであった。</li> <li>夫婦2人の状態が鬱傾向の原因ではないかとも考えられ、ヘルパーが関わることで閉塞した環境を改善できればと導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご主人様が奥様(本人)の生活全てを支援していた。</li> <li>介護負担が大きいこともありサービスを導入。ご主人様が他者を受け入れるかが懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族が対応されているので必要なし。12月終了。</li> </ul>	台場HS
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス開始から4日目にてサービス終了となり、状況の変化はみられず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者と関わる事で明るくなった印象を受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご主人様からサービスキャンセルのコールが続く。</li> <li>ヘルパーが入ってもご主人様から介護負担軽減するための協力要請はなく、逆にスタッフの言動にご主人様が誤解を受けられてしまった。</li> </ul>		



14	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒による尾てい骨と左腕骨折により一人では起き上がり、立ち上がり歩行が出来ず、食事の支度や排尿も困難。</li> <li>排尿が困難なため水分量を控えてしまい、ストマ出口で便が硬くなり、バック内に出てこない状態だった。</li> <li>脱水傾向も認められていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄の失敗への不安がストレスとなり、水分量を控えていた。</li> <li>日中、身動き取れない自分があることで、就労している夫や娘が仕事を抜け出したり身体への負担をかけて迷惑をかけていると心を痛めていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同居されているご主人様や娘様は日中、仕事の合間を縫って介護にあたられており、精神的にも負担が多くあった。</li> <li>特にご主人様は慣れない介護で疲労困憊し、腰痛等も抱えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事介助・簡単な調理・配下膳。</li> <li>日常的な家事援助はご主人様や娘様が対応できるため問題はない。</li> </ul>	台場HS
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期と随時でヘルパーが訪問することで<b>食事の支度や排尿の誘導ができ、水分を控えることもなくなった。</b></li> <li>Drからは絶対安静でベッド療養を言われていたが、<b>食事や排泄の際はベッドから離れ、車椅子対応することで寝たきり防止</b>にもつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期と随時コールが出来ることで<b>安心感が得られ、排泄の失敗を心配することがなくなった。</b></li> <li>家族の代わりにケアの提供があるので就労中に<b>家族に迷惑、負担をかけずに済む、と不安から解消された。</b></li> <li>ヘルパーへの<b>依存心が強くなり、自立を妨げる</b>かたちになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパーが数回入ることにより<b>自由な時間ができ、仕事の合間に戻る必要もなくなり家族の負担が軽減された。</b></li> <li>就労中に「一人で大丈夫だろうか?」という<b>不安が解消された。</b></li> <li>夜間帯も専門職のケアを受けられることで<b>負担が軽減された。</b></li> </ul>		
15	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッドからの転落等があった際、日中独居のため介護者が状況把握できずそのままのことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事やトイレへの移動をご自身でやらなければ、という気持ちが強くいう気持ちが強く何度も転倒をしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同居されている息子様は日中就労されており、訪問介護と通所介護を利用し在宅での生活を送られていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年2月ご入院。</li> </ul>	大崎HH
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ご自身で必要時にコールができるようになり、早急の対応</b>ができるようになった。</li> <li>何時間も床で過ごすことや、失禁をそのままにすることが無くなり<b>精神的な安定と清潔を保持</b>できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事介助や排泄のための移乗、移動介助をヘルパーに任せてくださるようになり、<b>安心して在宅生活</b>が送れるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパーの定期訪問で、日中ご不在の息子様に代り<b>体調変化の早期発見</b>ができるようになった。</li> </ul>		
16	■	導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の痛みがありベッドで寝たきりの状態。</li> <li>褥瘡も出来ており状態が悪くなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒、転落した場合、奥様一人では対応できないため不安があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日中見守りをしていないといけないうえ、奥様の負担が大きかった。</li> <li>転倒、転落してしまったらという不安がストレスになっていた。</li> <li>日中以外の家族が居る時間は、奥様以外のご家族が対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族が対応されているので必要なし。</li> </ul>	台場HS
		導入後	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の痛みが無くなり、少しではあるが<b>歩行が出来る様</b>になってきた。</li> <li><b>動けるようになった反面、ベッドからの転落が増え</b>てしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒、転落時に介助に来てもらえるという<b>安心感</b>が持てるようになった。</li> <li>尿失禁多量時にも随時コールにて、<b>おむつ交換にいつでも来てもらえるという安心感</b>が得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒、転落時には介助に来てもらえるため、<b>不安、ストレスが解消</b>できている。</li> </ul>		

※ 終了者